

々々靈異兒とわらへせむが、あやう。御年二十四少く皇后や
 備王給ふき。天皇また御叔父彦人大兄王の御女。大中姫命
 や申ひを娶く。麿阪王忍熊王。姓氏録小ハ。忍熊
 二柱を生し
 め給ひ來熊田造。祖太酒主。女弟媛を娶く。譽屋別命を
 生せ給ふ。記小ハ。此王を皇
 磯部臣等。祖小ませ。又忍稚命や申ひ御子もわらへし
 是布勢公の祖を皇。間人以下。姓氏録小因り。また齋宮記
 記小ハ。記傳小ハ。根鳥王の御子。伊和島
 同二月六日。天皇皇
 后二柱や。小越前國角鹿小行幸。やぐ。小行宮
 を建く。大座せ。あはを筭飯宮をいふ。神名帳小。同國敦賀
 郡氣比神社。また角

鹿神社あり。角鹿と。崇神天皇御代小。大加羅國の都。怒我
 阿羅斯登と。いひ。歸化く。住居。地名や成。後小
 轉く。ツルガと。いふ。和名抄小。敦賀郡都留我。此地の支。武烈
 天皇紀。國造本紀。わ。小見え。万葉集小。角鹿津。乘船時。笠金
 村。作歌。越海の角鹿の濱。ゆ云。後撰集小。相。待。り
 人の。あり。越の國へ。ま。か。り。小詠人。い。け。我
 を。き。み。お。し。ひ。つ。が。の。あ。い。ち。か。る。の。山。ハ。ま。や。や。と
 此。時。都。お。り。麿。坂。王。忍。熊。王。等。を。留。後。や。是。月。淡。路。國。の。宅。家
 遺置給ひ。く。ひ。や。覺。ゆ。り。由。り。あ。り。荒。饑。や。ど。事。あ
 を。定。給。る。皇。此。家。と。ハ。百。穀。を。積。貯。れ。つ。く。御。倉。ま。た。其。ま。主。る
 官司。も。も。指。く。い。ふ。御。少。上。古。ハ。諸。國。小。數。三。月。十。五。日。天
 多。あ。り。安。閑。天。皇。紀。を。見。く。知。る。る。皇。南。國。を。巡。看。を。は。む。や。く。皇。后。及。百。寮。を。い。筭。飯。宮。小
 留。給。ひ。御。親。を。卿。大。夫。た。も。ち。二。人。三。人。や。數。百。の。官。人。等。を。率
 紀。伊。國。小。幸。徳。勒。津。宮。小。御。座。は。高。郡。江。名。村

豊浦津小泊トヨウラツまゝぬ皇后ハ角鹿を發トクし路を津國小執ツクニ
下シタりまマせり夏攝津國風土記の美奴賣松原條小今美奴
賣ウツやウツらウツ神の御名ミナを其神もや能勢郡ノセノを美奴賣山
小坐ウツせウツがウツ攝津志小三草山在神山村ウツ昔息長足比賣天皇
の筑紫ツクシ小幸イサまイサり時諸神等カミタチを川邊郡の内神前松原小集ツトる
同志トウシ小ウツれウツを在ウツ社福サチを求め給ふ時小此神も同トウく來集
木キあキを皆美材ヨキを伐採ウツし船小造らウツぬ給ウツる則此船小
乘ノリり行幸イサをイサ幸福イサあイサむイサ宣ウツへウツ天皇乃神教カミノミコトノシラセのウツもウツく
船と造ツクぬ給ウツひ此神船小乘ノリり遂小新羅コソを征ウツけ給ウツふやあ

了ウツ鎌倉賣記小神功皇后の行宮兵庫小わウツるウツ三韓渡海の
兵糧兵具百艘小積入ウツ難波崎小浮ウツる難風を厭ウツく神明
を祈ウツり諸龍カミを祭ウツり給ウツふかくウツ播磨國小遷幸ウツせウツるウツ播磨
ヤウツワウツ古説コトワザをウツあウツけウツたウツまウツかウツくウツ播磨國小遷幸ウツせウツるウツ播磨
風土記小息長帶日女命イサナノヒメノミコト新羅國コソノクニを平ウツくウツむウツ思ウツほウツくウツ下坐
せウツる時小諸神等小禱ネギマフシ白賜シラタマヒるウツ爾時シノトキニ國堅クニカタクまウツ大神の御
子ニホ保都比賣命ホツヒメノミコト填山ウツ姫命ヒメノミコト新具ニホ菟ウツ命ウツ白ウツり
野山ノノ天野社アメノヤ鎮ウツるウツ國造クニツクリ石阪比賣命イサノヒメノミコト託ウツりウツ教ウツり
賜ウツりウツ我御前ウツを治奉ウツり給ウツるウツ我ウツも善驗ヨキシメシを出ウツるウツ比
々良水ヒラキの八尋ヤヒ杵根ウツ底附ウツるウツ國越賣クニトメの眉引ユヅリ國玉クニタマくウツげ賀
賀益國ガヤク苦尻寶クシラタマヒあるウツ白倉新羅シラタマヒのウツくウツ丹浪ニナミもウツ平伏賜ヘラヒタマヒる
むウツ教へ賜ウツるウツ見ゆウツ神諾カミナカ小誤字ウツありウツ聞ウツえウツ解難ウツき
八

宿於宇伎頭川之泊自此泊度行於伊都之時忽遭逆風不得
 進行而從船越々御船船猶亦不得進乃追發百姓令引御船
 於是有一女人爲資上已之負而墜於江故號宇須伎波須久
 從船越々を從陸引越の誤少く垂仁天皇記欽明天皇紀お
 かし見えし如く陸地を御船を引せし水一なりなる宇須
 伎の於須志や同語少く女子の物を江に投棄た
 りしをたをまき莫と号初たるあやありむ
 頭川をかきいふ所以の宇須伎津の西方に絞水之淵あり
 故宇頭川やいふやうく大帶白賣命御船の泊り地たり
 宇頭ハ万葉集ハ天平八年遣新羅使の中なる田辺秋庭や
 いふ人の大鳥鳴門を過し時の歌ふいふ水や出の名おたふ
 なる門の宇頭之保尔やありと盤渦潮やいふ義なりなる
 柿本集ふ河のせふうのまき見まむ玉もかちり乱ま
 る河の舟ふる古今六帖ふたきら瀬のうらまきあやふ留
 むれや云類聚名義抄ふ酒後廻水ウツマク状をウツ

マクウツや見え文選ハ盤蓋莖子ハ齊字をウツマクや訓
 孔子家語あり園流や書たふされ絞水も盤渦く淵の事
 や知り右の大鳥鳴門ハ今も大畑迫門や周防又伊都
 国ハ在る甚しうまき海あり舟人の恐る所なり
 村を伊都や名づけ故ハ御船の水手等のいふ此所ハ
 到る見むやいひかき其地を號し伊都やいふ万葉集ハ
 見むやあひ来し我をさや數し多き詞なりが大
 伴家持卿山上憶良朝臣歌あり多く伊都や書きたる
 浦上里御津ハ息長帶日賣命の御船の宿り泊なり故ハ
 號し御津やいふ又讃容郡中川里をかき名づけたる所以
 ハ苦編首等ハ遠祖大中子やいふ人息長帶日賣命の韓國
 小行幸せり時ハ御船淡路石屋ハ宿りませし
 石屋神社見え六角堂縁起續古事談や淡路の巖屋の
 海やいひ行囊抄ハ岩屋村ハたのぐら島の西岸あり岩ハ

鍋釜の形自然ふ。その時雨風大小起。御伴より百姓やも。悉く濡たを多れども。大中子苦も。屋を作里。か。天皇視。此爲國富や勅。即大中子小。苦編首や。百姓を賜。仍此處小居た。故小。仲川里や。同郡中川。御兵部式小。中川。驛見ゆ。大中子ハ。此時御軍小。從。西国小下。里々。後小。地を此。里小賜。子孫。世住。中川。里や。故小。其子孫の代小。遠祖の名を地小。買。せ。中川。里や。唯。天皇や。撰津常陸風土記小。皇。后を申せ。例もあれや。尚此記ハ。上小。奉た。賀古郡の說。の如く。仲哀天皇や。何所小。早會給ひ。二柱并坐。下。幸せ。傳ふ。あ。猶下小。引る伊。豫風土記。あ。思合さ。微。あ。かく。皇后の御船。備前國の海上を過給つる時小。大なる牛の如き物出。御船を覆さ。びや。せ。住吉大神老翁や。現。其角。

を取。投倒。給ひ。其所をや。牛轉や。後小。牛窓や。其の。養父郡なる山寺小。牛鬼住。一僧を喰。教たり。其。東鑑。小。建長三年三月六日。武藏國淺草寺小。忽小。牛の如き物出。走。寺僧五十人許。食堂小。集。七人の即坐。小。見。廿四人ハ。立。病をうけ。七人の即坐。小。や。例も。万葉集小。牛窓の浪の塩さ。志。今。も。君小。逢。曾丹集小。搦立。名ハ。高砂の松。水雞の音。波。安藝國沼田郡。淳由門。到坐。御食。召。時海。魚多く。御船の傍。來集。

皇后御酒を以て、これ小瀬賜ひけり。鯛魚やぐく酔ふ波
 上小浮ひ出ぬ時、小海人やも、其魚を多く獲く此ハ聖皇の
 吾小賜る魚を、やひひく甚く歡ひあをり。かく此後
 其處の鯛魚、六月小なる頃、傾浮ふまや、酔る若
 小安藝人、唐崎氏曰、今、豊田郡味瀨、有此事。初夏、傾浮、藤原好古ハ、幡本紀
 數月、稱曰、浮鯛、有官制、不妄綱之、也。見原好古ハ、幡本紀
 小、淳田郡、淳田の邊、野路の沖、方六七丈程の所、小、毎年三
 月、魚多く浮ふ由、詞花集、小、花を惜む心をよめり。大藏
 卿、匡房、春、これ、味、一方、小、浮く、魚の名、
 惜し、此、夏を詠、たり、入江、昌喜、父、保
 の、事、小、右、歌を引、淳田門ハ、和名抄、小、同、国、沼田郡、沼
 田、御、安直、御、安直、知、加、中、ある、安直を、難波、明石、
 小、類、少、あり、た、中、詠、小、や、能、地、小、鯛の、浮、小、
 中、今、ハ、三、月、三、日、前、後、ち、中、詠、小、然、説、ち、り、は、古

ハ六月、小浮たり。小、後世、小、春、夏、け、浮く、事、や、
 ろ、好古、も、言、如、古、今、曆、年、の、差、を、生、け、り、小、因、り、夏
 少、や、あり、む、新、撰、六、帖、小、知、家、三、位、み、小、月、や、君、
 逢、ひ、と、め、り、浮、く、と、魚、ハ、今、も、あり、や、り、徒、小、皇、典、小
 因、り、詠、と、め、り、小、を、信、友、が、淳、田、ハ、若、狭、国、三
 方、の、海、辺、小、今、も、ノ、夕、ノ、ト、中、の、所、あり、六、月、小、至、る、毎
 小、鯛、魚、漂、蕩、ふ、を、漁、父、也、是、を、漢、多、を、ま、い、ろ、小、鯛、や、
 中、右、の、知、家、卿、の、歌、を、引、証、匡、房、卿、の、歌、ハ、安、藝、國、の
 夏、少、彼、中、異、ち、を、皇、后、の、御、船、ハ、北、海、小、浮、ひ
 小、周、防、国、小、幸、也、狀、小、論、つ、れ、や、上、小、引、る、古、書、や、小、津
 國、及、播、磨、備、前、等、の、國、を、過、き、せ、傳、多、多、れ、信、
 小、讚、岐、國、也、綾、松、山、近、き、海、少、孫、生、の、頃、鯛、魚、の、傾、浮、ふ
 御、縁、あり、所、少、非、る、猶、よ、尋、ぬ、を、此、時、小、伊、豫、國
 行、幸、つ、む、や、思、を、由、あり、伊、豫、風、土、記、湯、泉
 郡、の、條、小、天、皇、等、の、湯、小、幸、行、せ、る、ま、や、五、度、あり、景、行
 天、皇、よ、以、來、の、行、幸、を、記、せ、る、中、小、以、帶、中、日、子、天、皇、與、大

后息長帶姫命二軀為一度也スハシラキやあるトあく知られたる。是謂

道後温泉なる。風土記小季く説く如く神代の時少彦名大神の珠を故ありて出給る。靈泉をれむや。皇祖天皇の幸いつり地をれば此時御船路の行幸小看し幸々むむら。後小天智天皇の皇太子や坐し時齊明天皇を奉じ。韓國を征せ給るむや。筑紫小下ませり時。此地小幸せ。あや。思合はる。ゆ。此傳ハ天皇皇后相與小幸し傳ちるを。上小攀播磨風土記の印南仲川里條や考合はる。も。万葉集小橘の鳴。居る。河遠み曝さぐゆひ。吾下衣やある。仙覺抄小如伊豫風土記者息長足日女命御歌也やある。此記ハ今全書闕く委き夏ハ知られねや。文德天皇實録小伊豫國神野郡橘里見え和名抄小右の外小越智郡温泉郡也。立花郷あり。橘島も必右郷の内なるを。此ま。大后御往還の時伊豫小幸せ。證し。今ハ。吾父道正の同國喜多郡檉野村や。此地の浦小物せ。小。皇后の御船を撃せ給るや。傳ち。怪き巖石のありを親見たるや。語る。此を記しや。思。か。秋七月五日小皇后

の御船豐浦津泊ま。是日皇后海中ト如意珠ト得給ひト。

下段小引る古説小皇后の御妹淡姫命を海中の立せ給ひたる所なり。其東の海中小十餘里あり。若宮島二つ對なる。古の于珠滿珠なる。今ハ松杉の。や申し。宗祇が筑紫道諷小沖中を過る程小滿于。や。二の島を見り。漢國の人け。慕ひ。昔あり。見え。今ハ與津手津や。二島あり。于滿二珠を蔵ら。故み。于の島や云傳ふや。此時の由あり地なる。通証小如意神祠在泉州堺南莊祭神彦火火出見尊住吉旧記曰尊入海神宮得潮滿珠潮洞珠而後万事如意故號如意神俗謬稱子卯神或稱子亥神。此本住吉境地也。親長記所謂參詣子亥神是也。見ゆ土佐風土記小吾川郡玉島或説曰神功皇后巡國之時御船泊之。皇后下島休息磯際得一白石團如雞卵。皇后安于御掌光明四出。皇后大喜。詔左右曰。是海神所賜白真珠也。故為島名。や。異時。若去の時の夏。白珠を得給哀天皇の紀。國よ。發。彼地。幸。白珠を得給

